

議会報告会実施報告書（議長報告用）

| | |
|----------------|---|
| 開 催 日 時 | 令和 7 年 11 月 4 日（火） 18：00～ 18：30 |
| 開 催 場 所 | 福島県立医科大学保健科学部（駅前キャンパス多目的ホール） |
| 出席議員及び役割分担 | 班 長：沢井 和宏 副班長：山田 裕 司 会：山田 裕 報告者：（総務）菅原 美智子（文教福祉）萩原 太郎 （経済民生）小野 京子（建設水道）大平 洋人 (議員定数に関する調査特別委員会) 浦野 洋太朗 記録等：二階堂 利枝 |
| 参 加 人 数 | 福島県立医大 医学部学生 1 名 看護学部学生 1 名 保健科学部ボランティアサークル「Tomorrow」 11 名 計 13 名 |
| 議会報告会の報告に対する質疑 | なし |

令和 7 年 11 月 4 日

福島市議会議長 様

上記のとおり報告します。

議会報告会 1 班 班長 沢井 和宏

意見交換会実施報告書（議長報告用）

| | |
|------------|--|
| 開催日時 | 令和7年11月4日（火） 18：30～19：30 |
| 開催場所 | 福島県立医科大学保健科学部（駅前キャンパス多目的ホール） |
| 出席議員及び役割分担 | <p>座長：沢井 和宏 Aグループ Bグループ 司会：山田 裕 司会：萩原 太郎 班員：二階堂 利枝 班員：小野 京子 大平 洋人 記録：菅原 美智子 記録：浦野 洋太朗</p> |
| 参加人数 | <p>福島県立医大 医学部学生1名 看護学部学生1名 保健科学部ボランティアサークル「Tomorrow」11名 計13名</p> |
| 意見交換会の概要 | <p>テーマ：「福島市で学ぶ若者の視点からみた福島市の課題・福島市へ期待すること」「将来地域にどのようにかかわっていきたいか（将来の目標）」</p> <p>テーマ① 「福島市で学ぶ若者の視点からみた福島市の課題・福島市へ期待すること」</p> <p>A班 Aさん 福島駅西口のイトヨーカドーが閉店し、駅前に何もない。車社会のため、車のない学生にとって、バスやタクシーの料金は高く、イオンなど各地に分散している商業施設などに行きにくい。歩行者の利便性を高めてほしい。</p> <p>Bさん 阿武隈急行が廃止されたら困る。福島駅の駅ビル内の充実を図ってほしい。</p> <p>Cさん 東口と西口をつなぐ地下通路が暗く、一人で歩くのが怖い。実際に、不審な人に声をかけられたことがある。</p> <p>議員 一人で歩いている場合は、前方から酔った集団が向かってくると怖い。女性の視点に立った空間の考え方が必要である。</p> <p>Dさん 市内の飲食店でアルバイトをしているが、御客がほとんど来ず、人が行き来する街にしてほしい。</p> |

Eさん

駅前の街路灯が少なく、暗くて怖い。地下通路も同様。一方で、昨年のJR東日本と連携し、福島駅構内在来線コンコースを無料で通過できる社会実験「うえいく？～えきなか通る！社会実験～」は良かった。

B班

Gさん

若者の数が少なく、治安が悪いと感じる。居酒屋でアルバイトをしているが、夜声をかけられることがあり、安心して家まで帰れるようにしてほしい。

Hさん

夜治安が悪いと感じる。特に、客引きについて何とかならないだろうか。警察でにらみを利かすときっと隠れてしまう。無視して振り切るようにしている。

Iさん

駅前でのイベントが結構多いのだが、商業施設が少ない。福島での行動範囲は狭い。
水道を使うのは料理なので、水道料金が高いのが気になる。
カラスが多い。音で追い払うがすぐに戻ってくる。

Jさん

いわき市に住んでいたので駅前は学生が多く感じた。福島は駅前にスーパーが少ないので買い物がしづらい。駅前にスーパーが欲しい。一人暮らしをしているが不便である。学校が遅いので買い物ができない。閉店時間も早い。

Kさん

郡山に住んでいる。福島市もまちに商業施設がもっとあるといいな。学生は大学で一人暮らしをしている人が多い。福島市は車がないと生活できない。遊びに行く場所がない。

Lさん

福島市の良さは、果物がとてもおいしいところです。

テーマ② 「将来地域にどのように関わっていきたいか
(将来の目標)」

A班

Aさん

県内の医療業界の採用が少ない。

Bさん

病院でスキルを身につけたい、学びたいことは東京など県外の病院が多く、一度福島を出ていく考えである。(病院の就職は一般就職と違い、内定辞退がしにくいため、就職試験の受験もよく考えて選択しないといけない。)

Cさん

奨学金等、大学入学の助成の関係で、県内に就職することが義務づけられているので、県内で就職する予定。

Dさん

災害に特化した医者になりたい。

Eさん

病院に就職したくて入学したが、県内をはじめ赤字経営の病院が多いと聞き、一般就職も視野に入れている。

Fさん

家庭の事情で県外に出ることができず、県内就職予定。知らない土地へ行くのも不安で、人付き合いのある福島にいたい。

B班

Gさん

今の放射線量が低くなっている。このことを子どもたちが小さいうちに理解してもらうことが大切。

Hさん

地域特有の課題として、肥満率が高いので、そのことを考えていきたい。東日本大震災以降、子どもたちの外遊びが十分できるようにしていきたい。

Iさん

災害があった時の対応策として、段ボールを使ってプライバシーを守っていきたい。避難所の医療従事者が少ないと感じているので、貢献できるようになりたい。障がいがある人も安心して避難できる環境を作っていきたい。

Jさん

福島市だけでなく県内の高齢者で、病院に行かない人に検診に行ってもらいたい。病気にならないように予防医療を呼びかけていきたい。検診率が上がらないが、検診を受けない人には、再通知をして検診率を上げられるように貢献していきたい。

Kさん

助産婦の学校に入ろうと思う。産後ケアをしっかりできるよう地域で活動したい。家族で育てる、みんなで育てる、地域で生活をしていく、人が持っている力で支援できるようにしたい。困難を抱えている人に関心をもってほしい。地域に期待したい。

まとめ（沢井班長）

- ① 医療・看護等を学ぶ学生に参加していただいたので、県内の医療関係などに関する状況や課題について話されたのは大変有意義であった。それぞれ、医療分野等に、しっかりととした目標をもって活動されている。
- ② 参加者全員が女性ということで、女性目線でのまちの課題などが話題となる意見交換会となり、前回の参加者が男性だけの福島学院大学との場合と異なる視点で、福島を語ることができた。
- ③ いただいたご意見は、参加していない議員にも、報告をして共有化を図りたい。そして、今後、それぞれの議員活動や議会活動の場など様々な機会において活動していく中で、いただいたご意見が、市政発展のために、活かされていくものであると思っている。
- ④ 市民の生活と議会が密接にかかわっている一つの例として、東日本大

震災・原発事故からの復興について、お話する。

震災・原発事故直後の混乱の中、議会でも、市民を放射線の影響から守るため、多くの議論が繰り返された。市民からの寄せられる様々な意見をもとに、議会の中で議論を繰り返し、方向性を見出してきた。混乱していく中、市民の不安が大きい時だからこそ、議会での議論によって方向性と解決策を見出し、当局に提示し、実施していくことが必要となつてくる。14年を経た現在、福島市では、市民も安心して生活できるまで復興してきた。

令和7年11月17日

福島市議会議長 様

上記のとおり報告します。

議会報告会 1班 班長 沢井 和宏